

リレー連載
物流が「見た」
道路交通計画

物を運ぶ貨物車が高速道路や一般道路での渋滞や交通事故が原因で遅配したり配送できない場合がある。このような問題は、交通管理計画で解消できる可能性がある。

経済送輸



江守 昌弘氏（えもり まさひろ） 昭和38年生まれ。神戸大卒。技術士、APCエンジニア。建設技術研究所東京本社交通システム部部长

交通管理計画とは、交通規制や交通誘導の対策を実施することで、道路の危険防止や交通の安全と円滑の確保を図ることである。この交通管理計画の考え方を「分ける」「減らす」「換える」の視座に変えること。情報提供に「減らす」「換える」の視座を「分ける」の走行する路線や時間を「減らす」は、貨物車の走行する路線や時間を「減らす」は、交通渋滞解消や交通事故削減を進めること。具体的な対策として路上荷さばき施設の設置がある。

- 安全対策踏まえ円滑に輸送
- ①専用道路・優先道路を指定する
- ②通行時間規制
- ③貨駐車時間規制
- ④「換える」は、貨物車に対する対策が考えられる。

第5回

交通管理計画と物流事業者

トラックルートやトラッククレーンがある。これは、貨物車が走行する道路や車線を指定して市街地へ流入することを抑制する対策である。東

よる誘導や時間や路線ごとの高速道路料金割引などがある。道路を指定し貨物車と乗用車を分ける事例では、アメリカのニューヨーク市で実施されている

流入規制逆手に物流を改善
物流事業者は、交通規制に従い、交通誘導を上手に活用して、業務を改善していく方法を考える

	分ける	減らす	換える
交通管理	<p>【規制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①貨物車専用道路・優先道路指定（実例：トラックルート・トラッククレーン） ②貨物車の通行時間規制（実例：東京都心時間流入規制）→配送時間や配送手段の工夫 ③駐車時間規制 	<p>【誘導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ④路上荷さばき施設 	<p>【誘導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤情報提供（実例：ETC2.0）→ETC2.0の早期導入、交通情報の分析によるルート管理 ⑥高速道路料金の割引

また、普段利用している輸送ルートの交通データを分析することで、交通事故や渋滞の多発する区間や燃費の悪い区間を避けるようなルート管理が可能になる。交通データの分析が難しければ専門家に相談してもよい。物流事業者は、交通管理計画に従って配送手段や配送時間を変えたり、交通情報を効果的に入手して渋滞や事故を避け、多頻度小口配送やジャスト・イン・タイム輸送に対応して欲しい。